

地質サイトカード

カードNo.		A-①-5	通しNo.	5	作成日	2025/3/10		
サイト名		かん なび おおぶねさん 神名樋の大船山						
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト						
	区分	☒ 地質・地形		☐ 生態	☒ 文化			
	利用価値	☒ 科学		☐ 教育	☒ 観光・ツアー			
	所在地	出雲市多久町						
	アクセス	麓の多久神社 山陰道 宍道ICから約13km、約30分。						
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(3台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()						
	看板整備							
	留意点					位置情報	c-3	
保護・保全	法規制・関連団体等							
	保全メモ							
サイトの解説	みどころ	島根半島の形成期の断層運動による南北山系の形成と、その後の地殻の断裂が生んだ水脈。						
	地質・地形	大船山は本宮山エリアの中央より西に位置する標高327.2mの侵食山地である。標高358mの鍋池山が北に位置し、両者は一連の山系をなしている。流紋岩の火山砕屑岩よりなり、周囲の黒色頁岩とは指交関係にあるが、山系全体にわたって流紋岩の火山砕屑岩が極めて厚く堆積しているため、山系内では頁岩層の発達は少ない。また、植生被覆のため全体像の解明は容易でないが、複雑な地質構造をなしている。部分的に見られる露頭から推測すると、半ドーム状の構造が大船山山頂の南斜面に形成されている。大船山山頂から北北西へ直線距離で約200mにある「烏帽子岩」付近では走向が北西-南東方向で、傾斜が高角度となっており、直下の河床における緩傾斜の地層とは構造的に不調和をなす。大船山の西の沢では、北西-南東方向の走向で急傾斜となる流紋岩の火山礫凝灰岩や凝灰岩が確認される。そのため、「烏帽子岩」の南西斜面は、断層崖となっていると考えられる。鍋池山の西斜面にも4つの湖が南北方向に連なって存在し、地質構造を反映しているものとみられる。						
	歴史・文化 生物・生態 等	大船山は『出雲国風土記』に、神名樋山とよばれていた。「神名樋山。郡家の東北六里一百六十歩、高さ一百二十丈五尺、周り二十一里一百八十歩あり。嶺の西に石神あり。高さ一丈、周り一丈。径の側に小石神百予許あり。古老の伝へに云へらく、阿遅須枳高日子命の後、天御梶日女命、多宮村に來座して、多伎都比古命を産み給ひき。その時、教し詔りたまひしく、「汝が命の御祖の向位に生まむと欲りするに、此处そ宣き」とのりたまひき。いわゆる石神は、即ち是れ多伎都比古命の御魂なり。早にあひて雨を乞ふ時は、必ず降らしめたまふ。」と記されている。烏帽子岩付近の滝壺で、弥生時代終末期の土器(3世紀前半頃)から古墳前期にかけての土器が発見されている。						
写真・図等								
参考文献		鹿野和彦ほか(1991)今市地域の地質						